

令和6年度  
事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人足利大学



## 目 次

I. 学校法人の概要	
1. 基本情報	p. 1
2. 事業報告	p. 2
3. 設置する学校・学部・学科等	p. 3
4. 学部・学科等の入学定員・学生数の状況	p. 4
5. 役員の概要	p. 5
6. 教職員の状況	p. 6
II. 事業の概要	
1. 足利大学	p. 7
2. 足利短期大学	p. 11
3. 足利大学附属高等学校	p. 12
4. 足利短期大学附属高等学校	p. 14
5. 足利短期大学附属幼稚園	p. 16
6. 主要工事等の概要	p. 18
III. 財務の概要	
1. 資金収支計算書	p. 19
2. 活動区分資金収支計算書	p. 20
3. 事業活動収支計算書	p. 21
4. 貸借対照表	p. 22
5. 財産目録	p. 23
6. 経年比較	p. 24
7. 財務説明資料	p. 27
・資金収支計算書（グラフ）	
・事業活動収支計算書（グラフ）	
・貸借対照表（グラフ）	
・財務比率表	
・学校会計と企業会計	
IV. 監事による監査報告書	p. 32

## I. 学校法人の概要

### 1. 基本情報

#### (1) 法人の名称

「学校法人足利大学」（あしかがだいがく）

英字名称：Educational Foundation of Ashikaga University Group

#### (2) 事務所の住所等

住 所	〒326-8558 栃木県足利市大前町 268 番地の 1
電話番号	0284-62-9981
FAX 番号	0284-62-9100
電子メール	houjin@g.ashikaga.ac.jp
ホームページ	<a href="https://ashikaga.ac.jp">https://ashikaga.ac.jp</a>

#### (3) 建学の精神

学校法人足利大学は、聖徳太子が十七条憲法第一条に示した「以和為貴」を建学の精神とし、設置する5つの学園（足利大学、足利短期大学、足利大学附属高等学校、足利大学附属女子高等学校、足利大学附属幼稚園）における教育活動の基本としています。

#### (4) 学校法人の沿革

本学は大正 14(1925)年、足利仏教和合会により足利実践女学校（現足利大学附属女子高等学校）として設立され、昭和 36(1961)年月見ヶ丘高等学校男子部（現足利大学附属高等学校）、昭和 40(1965)年月見ヶ丘幼稚園（現足利大学附属幼稚園）、昭和 42(1967)年足利工業大学（現足利大学）、昭和 54(1979)年足利短期大学（令和 7(2025)年度から募集停止）が設立され、現在に至っています。

## 2. 令和 6 年度事業報告

学校法人足利大学は、大正 14(1925)年に足利仏教和合会が足利実践女学校を開設したことに始まり、「和の精神」を建学の理念として教育活動を展開し、令和 7(2025)年に創立 100 周年を迎えました。

急速に進む少子化や四年制大学への進学志向の高まりを受け、足利短期大学は令和 7(2025)年度から募集を停止しました。短大の附属校である高校、幼稚園は、令和 7(2025)年 4 月から足利大学の附属校として、それぞれ足利大学附属女子高校、足利大学附属幼稚園へ名称を変更し、運営を継続しています。

令和 7(2025)年度の入学者は、各校とも減少又は前年並みとなりました。地域の人口動態をみると、今後の地元出身入学者の増加は見込めない状況です。一方、高等教育政策では私学助成の在り方や高等教育無償化の制度見直しが検討されるなか、大学では収容定員充足率の確保が重要であり、高校では今後予定される私立高校の無償化に伴い、教育内容や施設設備の充実が志願者確保の重要なポイントであると考えられます。

足利大学では、工学部において、足利商工会議所の協力のもと、地域の企業における課題を学生の学びから解決する新たな授業科目「地域 DX 化教育プロジェクト」をスタート、令和 7(2025)年度から始まった「ライフデザインコース」での課題解決型学習(PBL)の取り組みなど、学生の学びの手法も変化しています。看護学部では、本学卒業後に地元の医療機関への就職を希望する志願者に対して「地元枠」入試制度を導入。工学部、看護学部ともに、地域との連携を強化することで地元への就職率向上へ向けた取組を開始しました。また、留学生や硬式野球部員の募集活動も積極的に展開し、幅広い地域から学生の募集に努めました。

附属高校では、足大附高、足大附女高ともに高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)に令和 6(2024)年度から 2 年連続して採択され、実習室、PC 室等の必要な設備を整備するとともに、授業実施にあたっては足利大学工学部からの支援を受けるなど教育内容の向上に努めました。

施設設備面では、足大附女高の体育館跡地に新運動場を整備しました。足利大学では、令和 3(2021)年度から開始した大前キャンパスの情報通信ネットワークの高度化について、講義室、実習室、研究室等への無線 LAN の全面的整備を完了しました。また、既存建物の耐震化率向上のため、大前キャンパス 4 号館の耐震診断を行いました。今後、耐震化率 100% 達成へ向け、計画を進める予定です。このほか、足大附高の特活棟を水害時の緊急避難場所として地域住民の方が利用できるよう、足利市との覚書を調印しました。

財政面では、学生数減少による学納金、補助金の減少が著しく、収支の改善が喫緊の課題です。このようななか、学園では経営改革計画を検討し、中長期計画の見直しを行いました。令和 8(2026)年度から、工学部入学定員の見直し、足大附高の専門学科再編、新人事制度の導入など、各種施策を実施する方向で具体的な検討を進めています。

これからも本学園の各校が協力し、地域との連携を一層強化し、地域とともに発展していく努力を続けていきます。

### 3. 設置する学校・学部・学科等（令和6年4月1日現在）

足利大学		
[大学院]	工学研究科博士後期課程	情報・生産工学専攻 建設・環境工学専攻
	工学研究科修士課程	情報・生産工学専攻 建設・環境工学専攻
[学 部]	工学部 看護学部	創生工学科 看護学科
足利短期大学	こども学科	
足利大学附属高等学校	普通科 機械科 電気科 建築科 自動車科 情報処理科	
足利短期大学附属高等学校	普通科	
足利短期大学附属幼稚園		

#### 4. 学部・学科等の入学定員・学生数の状況（令和6年5月1日現在）

##### （1）足利大学大学院

（人）

研究科	専攻	修士課程				博士後期課程					総計
		入学定員	1年	2年	合計	入学定員	1年	2年	3年	合計	
工学研究科	情報・生産工学専攻	20	13	18	31	3	0	0	0	0	31
	建設・環境工学専攻	15	1	3	4	2	2	0	1	3	7
合計		35	14	21	35	5	2	0	1	3	38

##### （2）足利大学

学部	学科	入学定員	1年	2年	3年	4年	合計
工学部	創生工学科	300	221	226	275	359	1,081
看護学部	看護学科	80	76	74	82	73	305
合計		380	297	300	357	432	1,386

##### （3）足利短期大学

学科	入学定員	1年	2年	合計
こども学科	50	38	31	69
合計	50	38	31	69

##### （4）足利大学附属高等学校

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	82	67	74	223
工業科(※)	81	111	95	287
自動車科	35	25	29	89
情報処理科	44	18	18	80
合計	242	221	216	679

(※)機械科、電気科、建築科は工業科として一括募集しています。

##### （5）足利短期大学附属高等学校

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	80	78	103	261

##### （6）足利短期大学附属幼稚園

学年	合計
年長	26
年中	20
年少	13
満3歳児	0
合計	59

## 5. 役員の概要

### (1) 役員一覧（令和6年5月1日現在）

理事	現員12人	(定数11人以上15人以内)		
	理事長	(非常勤)	武井 全 補	
	理事	(常勤)	末武 義 崇	
	理事	(常勤)	安藤 康 高	
	理事	(常勤)	青山 みどり	
	理事	(常勤)	長沼 宏 彰	
	理事	(常勤)	長江 仁 一	財務担当
	理事	(非常勤)	櫻井 哲 夫	
	理事	(非常勤)	和田 幸 信	
	理事	(非常勤)	源田 俊 昭	学園長
	理事	(非常勤)	秋草 俊 二	地域連携担当
	理事	(非常勤)	杉原 喜代美	
	理事	(非常勤)	富田 隆	産学連携担当
監事	現員3人	(定数3人)		
	監事	(非常勤)	石川 尚 志	
	監事	(非常勤)	采澤 良 浩	
	監事	(非常勤)	佐藤 純 英	

### (2) 役員賠償責任保険契約

本法人は、役員賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、当該保険により被保険者が負担することになる損害を補填することとしております。

令和6年度において、役員賠償責任保険契約に基づき補償が実行されたことはありません。

- ①団体契約者 日本私立大学協会
- ②被保険者 記名法人 学校法人足利大学  
個人被保険者 役員及び評議員
- ③保険期間 令和6年4月1日から1年間
- ④補償内容 ア. 役員（個人被保険者）に関する補償  
法律上の損害賠償金、争訟費用等  
イ. 記名法人に関する補償  
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用
- ⑤支払い対象とならない主な場合（職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置）  
法律違反に起因する対象事由等
- ⑥保険期間中総支払限度額  
10億円

(3) 評議員一覧 (令和6年5月1日現在)

評議員 現員31人 (定数30人以上36人以内)

青山 みどり	岡平 英明	中條 祐一
篤 英仁	川島 地人	長江 仁一
阿由葉 英峰	小林 重昭	長尾 昌朋
荒井 宣秋	佐々木 由美子	長沼 宏彰
安藤 康高	佐藤 栄子	深澤 幸弘
石橋 典子	白金 法文	堀 秀航
板橋 毅	末武 義崇	宮澤 伸吾
采澤 良俊	杉原 喜代美	室 恵子
海野 博之	瀧川 宏道	山越 忍隆
遠藤 英昌	竹内 啓二	
大貫 輝	内藤 純	

6. 教職員の状況

(1) 教員数 (令和6年5月1日現在)

学校名	教授	准教授	講師	助教	助手	計	兼任	計
足利大学	35	18	19	5	5	82	92	174
足利短期大学	3	2	3	0	0	8	16	24

学校名	教諭	養護教諭	兼任	計
足利大学附属高等学校	43	1	58	102
足利短期大学附属高等学校	21	1	18	40
足利短期大学附属幼稚園	7	0	3	10

合計	350
----	-----

(2) 職員数 (令和6年5月1日現在)

所属	区分	人数
法人本部	専任職員	8
	嘱託職員	3
足利大学	専任職員	44
	嘱託職員	10
	派遣職員	0
足利短期大学	専任職員	4
	嘱託職員	2
	派遣職員	0
足利大学附属高等学校	専任職員	5
	嘱託職員	3
足利短期大学附属高等学校	専任職員	2
	嘱託職員	1
足利短期大学附属幼稚園	専任職員	0
	嘱託職員	3
合計		85

## II. 事業の概要

### 1. 足利大学

#### (1) 工学部・大学院

##### ① 教育体制の充実

令和 5(2023)年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に引き下げられ、令和 6(2024)年度は授業開始日からコロナ禍前の環境での受講が可能になりました。

学習管理システム「足利大学 manaba」によるコンテンツ配信、レポート指導及び個別指導コレクション機能を活用した個々の学生に対する指導の充実など、コロナ禍で構築してきたオンライン授業の良いところを取り入れた対面授業は現在も継続しており、一定の成果が出ています。

卒業研究については、昨年度同様、共通的评价を目的としたルーブリック評価に基づく成績評価を行い、学習成果の可視化を進めました。

令和 5(2023)年度に開講した「足利大学カーボンニュートラル(CN)教育プログラム」は、令和 6(2024)年度に 2 年次科目が開講され、対象となる科目全てを合格(単位修得)した 74 名が修了認定されました。

足利大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラムは、「リテラシーレベル」に加えて令和 5(2023)年に「応用基礎レベル」も文部科学省により認定され、令和 6(2024)年度から「応用基礎レベル」を実施しています。

令和 7(2025)年度に新設するライフデザインコース(L コース)開設に向けた WG を立ち上げ、運用体制、カリキュラムを整備しました。

##### ② 入学者の確保

オープンキャンパス・体験型オープンキャンパスともに、事前予約制の対面開催と致しました。学部の入学者については、学校推薦入試(公募型)、総合型選抜、留学生選抜で増加したものの、その他の入試による入学者の減少から、全入学者 200 名と定員の充足には至りませんでした。学力選抜入試の志願者は、昨年同様、比較的学力の高い高校からの志願者で、上位合格者の点数も昨年並みでしたが、未手続者、入学辞退者も昨年同様に多く、上記の結果となりました。

大学院の令和 6(2024)年度入学者は、前年度比 5 名増の 18 名となりました。大学院修了者のメリットを、在学生により一層アピールする必要があります。

##### ③ 学生指導

私費外国人留学生学費減免については、昨年度同様、前学期までの出席状況及び単位修得状況が良好で工学部の各分野または各所属専攻から推薦された者のみを減免対象とし、10 名を減免対象外としました。

学業特待生は、令和 4(2022)年度入学生(3 年生)49 名、令和 3(2021)年度入学生(4 年生)62 名を教授会に推薦しました。

夏期教育相談会を令和 6(2024)年 9 月 14 日に、特別教育相談会を令和 7(2025)年 3 月 29 日に、いずれも対面で開催しました。

わたらせ祭を、令和 6(2024)年 10 月 13, 14 日に対面形式で実施し、野外ステージから正門まで人で埋め尽くされる程人気のイベントも行われ、成功裏に終了しました。

令和 6(2024)年 4 月 1 日から障害者差別解消法による合理的配慮の提供が義務化される、配慮を希望する学生には「足利大学障害学生の支援に関する規程案」に沿って対応しました。

#### ④ 留学生の支援

上述の通り、工学部の各分野または大学院各専攻から推薦された者を対象に、私費外国人留学生学費減免を実行しました。また、留学生を対象とした奨学金にも積極的に応募致しました。

#### ⑤ キャリア支援

就職支援については、昨年度に体系化した「キャリアブリッジ・プログラム」に沿って行い、キャリアセンターと教員が密に連携を取り、就職活動者・進路未決定者に対して個別連絡・現状把握・徹底した個別相談・的確な進路支援を行いました。就職情報交換会は、第 1 回(東京・埼玉方面)は令和 6(2024)年 10 月 15 日に、第 2 回(栃木・群馬・茨城方面)は同 11 月 14 日にいずれも対面形式で開催しました。

就職ガイダンス(第 1 回～第 7 回)では、昨年度に引き続き外部業者を活用し、インターンシップや就職活動に関する準備や取り組みについて学生に情報提供を行いました。また、個別面接対策講座を 10 月から 2 月まで毎月(回数は、対面と LIVE を合わせて計 9 回)実施し、就職活動を行う学生に随時対応しました。

キャリア講座においても、Web 面接・対面面接対策講座、面接対策講座(グループ分け対応)を実施し、面接スキルを向上させました。

「学内企業発見セミナー」は、令和 7(2025)年 2 月 18 日～19 日の 2 日間、AUG アリーナにて対面で開催しました。

令和 6(2024)年度は、就職内定率(留学生を除く)98.0%、留学生の内定率 83.3%を達成しました。

#### ⑥ FD・SD 活動

「フレッシュマンゼミ及び地域 DX 化教育プロジェクト」をテーマした FD シンポジウムを、令和 6(2024)年 12 月 17 日に大講義室にて開催しました。シンポジウムでは、教務委員長及び工学部長による、フレッシュマンゼミにおける学生への学習指導、留学生への日本語教育についての説明、システム情報分野主任教授による地域 DX 化教育プロジェクトの概要の説明及び初年度の成果報告がなされました。当日参加できなかった教員には、シンポジウムを撮影した動画ファイルを 12 月 19 日より Google ドライブにアップロードし、受講できるようにしました。

### (2) 看護学部

#### ① 教育体制の充実

令和 6(2024)年度は、新型コロナウイルス感染症は 5 類となったため、感染防止対策に努めて授業形態は対面として継続実施しました。仏教行事等も学事日程に配置し、教育の一環として位置づけられました。

令和 4(2022)年度の入学生から新カリキュラムを適用して 3 年目となり、旧カリキュラムの在學生とともに順調な教育活動を展開できています。学力格差を考慮した個別対応が必要であると考え、クラス担任・アドバイザー担当教員、学生指導委員長、教務委員長、保健室職員等で、丁寧に対応しています。

令和 6(2024)年度卒業生(第 8 期生)について、令和 7(2025)年 2 月に実施された第 114 回看護師国家試験合格率は 93.1%(全体全国平均 90.1%,新卒全国平均 95.9%,栃木県平均 89.4%)、第 111 回保健師国家試験合格率は 81.8%(全体全国平均 94.0%,新卒全国平均 96.4%,栃木県平均 92.2%)でした。国家試験合格率を上げるために学修支援プログラムを再強化し、看護師、保健師ともにさらなる取り組みが必要であると考えています。また、養護教諭一種免許状は 20 名が取得しました。

## ② 入学者の確保

令和 7(2025)年度の入学生は 79 名(志願者 164 名、受験者 157 名、合格者 149 名)、入学定員(80 名)の確保については、近隣大学の募集状況からも志願者を増やすことが課題です。入試形態は、指定校推薦に加えて、地域枠(足利・佐野)を設け、合格者の早期確保につながりました。今後も志願者の増加に向けて入試形態ごとの募集人数等も検討していきます。広報活動は、オープンキャンパスを体験・参加型中心に実施できました。参加者は、高校生及び保護者であり、保護者は増加傾向です。今後も本学の①少人数制教育の特徴、②地域貢献、③国際交流、④学生生活、⑤卒業生の活躍を地域立大学の魅力あるものとして高校生・保護者・高校教員に機会を作り紹介していきたいと考えています。また、看護師・保健師、養護教諭一種免許状の資格取得を本学の強みにできるように国家試験合格率の全国平均以上の実績を積み重ねていきます。

## ③ 学生指導

新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、安心・安全な学生生活が送れるように努めました。

保護者説明会を 1 年次生は 4 月、2~4 年次生は 6 月に Web 開催しました。教育相談会は、6 月、10 月、3 月に対面、電話等で実施しました。また、生活面が心配な学生には個別に対応して課題解決に努めました。

## ④ キャリア支援

全学生に対してグループアドバイザー・クラス担任・委員会を中心に大学生活全般にわたりサポート体制を取っています。令和 7(2025)年度採用の看護職員足利赤十字病院指定校推薦制度等により 19 名が就職しました。卒業後の進路については、キャリアセンター委員会が中心となり包括連携協定している足利赤十字病院ほか実習病院就職説明会等を開催し、就職内定率は 100%でした。

## ⑤ FD 活動

看護学部としての FD 研修会を 5 回開催しました。新カリキュラム改正に向けて教育力向上のための研修(看護学実習に関するルーブリック評価)や看護職を希望する受験生の特性を知るための研修(特別な支援が必要な学生の支援など)、私立看護系大学からの配信(看護教育における DX 教材など)動画視聴を中心とした自主的な活動をしました。

### (3) 地域貢献

#### ① “まちづくり”への参加・支援

令和 6(2024)年度も、大学・地域連携プロジェクトとして、「竹あかりイベントによる足利まちなかにぎわい創出」を実施し、令和 7(2025)年 2 月 27 日に足利市長へ活動成果を報告しました。

また、本学教員が中心となり、冊子『多世代交流による足利のまちづくり』を発行しました。

#### ② 高大連携事業及び高等学校支援事業

アドミッションセンターを中心に、授業宅配便、高校生学習支援、大会・コンテストなどの支援事業を実施しました。また、例年本学を会場として実施している北関東三県工業高校生徒研究発表大会については、昨年に引き続き令和 6(2024)年度も足利大学での対面開催となり、成功裏に終了しました。

#### ③ 足利大学地域 DX 化教育プロジェクト

令和 6(2024)年度より、足利市、足利商工会議所と足利大学が連携して取り組む産学官連携事業として「足利大学地域 DX 化教育プロジェクト」を開講しました。本講義では、本学学生による地域社会の DX 化と地域貢献を目指しております。令和 7(2025)年 3 月 28 日に足利商工会議所にて成果報告会」が開催され、成功裏に終了しました。

#### ④ 足利大学・足利短期大学合同公開講座

令和 6(2024)年 10 月 22 日から 11 月 26 日にかけて計 6 回、足利短期大学教員、足利大学教員による公開講座が本城キャンパス月見ヶ丘ホールにて開催されました。

#### ⑤ ボランティア活動

高校生を対象に看護学部サークル「モアレ」が性教育ピアエデュケーションを 7 つの高校(対象者 768 名)で行いました。

#### ⑥ 看護専門職と地域への活動支援

看護実践教育研究センターでは、看護実践の場での活動として足利赤十字病院看護部に研究活動の支援を行っています。また、依頼があった 3 つの高校に講師を派遣し、「性教育・エイズ講話」(対象者 696 名)を行い地域の健康教育活動を支援しました。

#### ⑦ 足利市教育委員会と足利大学の連携事業

「The あしかが学 17」の講師として看護学部教員が介護・看護の支援体制について考える講座を 4 回(延べ参加人数 91 名)行いました。

### (4) 国際交流

令和 6(2024)年度も、イリノイ大学スプリングフィールド校(UIS)、マリアノマルコス州立大学(MMSU)、中華医事科技大学(HWAI)、浙江工業大学(ZJUT)などの姉妹校・協定校との活動をはじめとして、多くの国際交流事業を行いました。

UIS との交換留学プログラムは令和 6(2024)年 8 月 23 日～9 月 6 日、MMSU 短期英語留学プログラムは令和 7(2025)年 2 月 26 日～3 月 11 日、HWAI 短期留学プロ

グラムは令和 7(2025)年 3 月 2 日～15 日の日程で、いずれも渡航型プログラムとして開催しました。

<その他交流リスト>

- 6 月 UIS 短期留学プログラム(UIS 学生受け入れ)
- 7 月 中国曲阜師範大学短期留学プログラム(中国曲阜師範大学学生受け入れ)  
HWAI 短期留学プログラム(HWAI 学生受け入れ)
- 8 月 浙江工業大学国際サッカー親善試合(浙江工業大学キャンパス)
- 11 月 クイニョン大学(ベトナム)との協定校締結調印式  
浙江工業大学創立 70 周年記念式典(学長出席)

## 2. 足利短期大学

こども学科

### (1)教育の実施

- ① 1、2 年次生ともに新教育課程に基づいて教育活動を実施し、保育士資格・幼稚園教諭二種免許状を取得するよう指導に努めました。

また、授業のほとんどを対面で実施しましたので、学生の理解度等の状況を把握ができ、状況に応じた授業を展開することで質の高い授業を実施することができました。

- ② 在学生の 2 年間で卒業、学科の教育目標である 2 つの資格取得を目指しましたが、卒業年次在籍者 30 名中、幼稚園教諭二種免許状では 5 名、保育士資格では 3 名の未取得者が出ております。そのため、学生の出席状況や学びの様子等を専任教員全員で確認し合い指導につなげる取り組みや、学生の単位未修得を未然に防ぐ取り組みを強化しております。

また、近年では保育士資格取得のみを目指す学生や資格を取得せず一般企業への就職を目指す学生が増えてきたため、令和 6(2024)年度も 3 つのプログラム 1)保育キャリアプログラム、2)福祉キャリアプログラム、3)ビジネスキャリアプログラムに基づいて、学生が個々の適正に応じたプログラムを選択できるようにしました。特に、ビジネスキャリアプログラムでは、今後も一般企業への就職に有利となる資格の取得を促していきます。

### (2)入学者の確保

これまでの入学者数の推移と今後の入学者数の見通しを考慮すると、今後も入学定員の確保は難しく、国による高等教育の修学支援制度対象機関としての要件を満たさなくなる可能性が高いことから、昨年度、令和 7(2025)度からの募集停止を決定しました。

### (3)学生指導

ほぼ通常通りのキャンパスライフを送ることができる環境となり、学生活動は概ねコロナ禍以前の状態に戻っております。4 月には「新入生交流会」が行われました。

「織姫祭」は、昨年度と同様に、足利大学の「わたらせ祭」と合同で実施しました。学生同士も昨年同様、良い交流ができたと考えます。

#### (4) 仏教行事

仏教行事については、降誕会・魂祭・成道会・涅槃会と4つの行事を実施しました。全学年が会場参加として会場設営と撤去ともに1年次生、2年次生で分担して行い、行事運営についても学修できるようにしました。

#### (5) 地域貢献

公開講座とボランティア活動が主ですが、ほぼ以前の状態に戻っております。

公開講座は令和6(2024)年度も対面形式で、前年度と同様に足利大学と合同で実施しました。本学の講座受講者は総計で44名でした。アンケート結果からは満足していただけた様子うかがえました。

ボランティア活動に関しては、通常通りの形で実施できました。今年度は、12月に2名の学生が表彰されました。

また、教員の社会活動については、可能な限り地域における各種委員会や講演依頼の委嘱を受け、活動を行いました。

#### (6) 進路指導

個別の相談や公務員対策を含めて、1年次後期に10回、同じく2年次前期に10回の進路指導を実施しました。卒業生講話として、卒業生による就職活動の体験談や就職先での仕事について話しを聞く時間を設けました。

また、1年次生には2年次生の就職活動についての話を聞き、質問をする時間を設けました。

卒業年次在籍者30名のうち就職希望者は28名でしたが、1名が内定獲得に至らず、就職率は96.4%となりました。1名は進学、残る1名は留年を選択しました。

### 3. 足利大学附属高等学校

#### (1) 入学者の確保

公立高校の最終倍率が、近県共通して、1倍を下回る傾向にあったため、手続き者が殆どおらず入学者の確保に反映できませんでした。

併願受験者が減少し、特に工業科希望者の減少が目立ちました。女子生徒に関しては横倍でしたが、男子生徒に関しては1クラス分の減少でした。

学習塾訪問はきめ細かな募集活動を行う上で、多くの学習塾と良好な関係が築け、本校にとって様々な情報が得られました。

工業科の巻き返しが急務です。工業科に対して興味関心を抱いてもらえるような工夫と努力を行いました。出願者増加に活かされませんでした。

普通科出願者の中には、運動部入部希望者も多く含まれており、勉強とスポーツの両

立を目指す生徒の受け皿の 1 つにフロンティアコースが位置付けられていると認識しています。

普通科に関しては、微増でした。進学実績がまだまだ乏しいので、特進コースの特色を打ち出し活性化に繋がりたいと考えています。

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
入 学 者 数	285 名	252 名	237 名	241 名	244 名
普通科入学者数	71 名	84 名	69 名	82 名	103 名
工業科入学者数	136 名	111 名	120 名	84 名	75 名

## (2) 学習環境の向上

足利大学工学部に 15 名、看護学部にて 7 名が内部推薦で進学しました。

本校の特色の 1 つである、資格試験が豊富に準備されていることから、工業系学科に在籍する生徒の高度な国家資格取得や、全国工業高等学校長協会の検定試験合格を表彰する制度に、ジュニアマイスター顕彰制度があります。30 点以上の生徒に、シルバーの称号が 4 名与えられ、20 点以上の生徒に、ブロンズの称号が 5 名認定されました。

全国商業高等学校協会主催検定試験三種目以上一級合格表彰に、1 名の生徒が認定されました。

1 年生の修養会も、予定通り 1 泊 2 日で迦葉山において実施することができました。生徒にとって貴重な経験を積んだことで、本校生徒としての自覚も芽生えました。

2 年生の山陽関西方面の修学旅行も無事終了することができました。

とちぎものづくり選手権で、入賞。高校生ものづくりコンテスト旋盤基礎クラス、旋盤一般クラスで、共に金賞に輝きました。

## (3) 教職員の資質向上

法人本部主催の財政説明会(10/15)に教職員が参加しました。

足利大学説明会(9/24)を開催しました。工学部や看護学部の情報を共有する機会が少なく、進路指導を行う上で統一した指導が出来るように、工学部長と看護学部長から、それぞれの特徴や入試に関する情報を提示していただきました。

私立学校 ICT 活用教育活動推進事業に沿って、委託業者の訪問を受けながら着実にスキルを高めています。

## (4) 地域とのつながり

足利市税務署、足利市租税教育推進協議会、足利市納税貯蓄組合連合会主催「税に関する作文で」足利市税務署長賞を受賞しました。

栃木県赤十字血液センター主催「愛の献血」に、生徒、教職員合わせて 107 名の生徒が協力しました。その内、400ml 献血に 69 名の方が協力しました。

三年に一度の学校祭となる「瀬南祭」が、テーマ、「和を以て瀬南祭と為す」で開催されました。生徒それぞれがお客と迎える側の二つを楽しみ、久々に一般の方々が来校

され賑やかな時間を過ごしました。

足利市まちづくり協働事業の一環として、カラス・猫等の動物による被害軽減に向けたごみステーションの製作依頼を受けて、足利市と企画締結を行い高校生が作るごみステーションを市内に複数設置し、大変感謝されました。今後も随時設置していく予定です。

あしかがフラワーパークプラザにて、第35回吹奏楽部定期演奏会が三部形式で開催されました。演奏にダンスにと趣向を凝らし楽しいコンサートでした。

高等学校DX加速化推進事業の一環として、足利市のAeroEdge(エアロエッジ)株式会社の協力を仰ぎ、3Dプリンタの現状と今後の展望などについて講義をお願いすると共に、生徒の会社見学を実現し実際の現場を学ぶ機会を計画中です。

#### (5)部活動の活躍

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)では、レスリング部が、団体第3位、60kg級準優勝、92kg級第3位となりました。また、バレーボール部、テニス部が出場しました。

全国高校生グレコローマンレスリング選手権大会において、92kg級優勝。SAGA国民スポーツ大会において、レスリング少年男子60kg級優勝、71kg級第3位、125kg級優勝となりました。

全国選抜大会では、レスリング部が、125kg級で準優勝しました。また、バレーボール部(春高バレー)、テニス部、弓道部(女子)が出場しました。

スキー部がインターハイ予選兼国体選考会で、15年連続男女総合優勝しました。

あきた鹿角国スポ2025において、少年男子大回転優勝、少年女子大回転優勝、ほか上位を独占しました。このほかスキー部では、韓国で開催された東アジア大会アルペン競技優勝、イタリアで開催されたアルプチンブラFISチルドレンカップへ出場するなど、世界大会で活躍しました。

レスリング部では、ヨルダンで開催されたU17世界選手権にて第3位、またヨルダンで開催されたU17アジア世界選手権へ出場するなど、世界大会で活躍しました。

文化部では、放送部が全国高等学校総合文化祭(全国総文祭)に6年連続出場し、放送コンテスト新人大会で総合優勝しました。

メカトロニクス研究部では、栃木市のGKNドライブラインジャパン(株)の高速周回路で開催された、栃木県高校生電気自動車大会に出場しました。

### 4. 足利短期大学附属高等学校(現足利大学附属女子高等学校)

#### (1)入学者の確保

令和6(2024)年度については見学会・説明会も従来通り行い渉外活動を一部変更して臨みましたが69名(前年比-11名)の入学となりました。令和6(2024)年度は短大閉学発表の影響が大きく出たと思われます。本年度は創立100周年と校名変更アピー

ルと今一度渉外活動を工夫し、学校見学会の内容を大幅に変更で入学者増を目指して取り組む所存です。

## (2) 学習環境の向上

タブレット端末を利用しての授業が定着し ICT 支援員活用が出来たことがプラスになりました。DX ハイスクール採択に伴い DX コモンズ新設と令和 6 年度全教室と会議室に 55 インチモニターの設置が完了しました。

1 年生は従来通り 1 泊 2 日の迦葉山（群馬県沼田市）での参禅修養会の実施。2 年生は初めての四国を入れた山陽・関西方面への修学旅行を無事終了しました。

## (3) 教職員の資質向上

ICT 活用において整備した PC の活用が進み、ICT 支援員の活用で教育活動の準備は進んでいます。支援員による教員対象の研修会を開催し、栃木県内の研修会や研究会へ積極的に参加することで教員のスキルアップを図りました。

## (4) 大学、短大との連携

大学との連携は足利大学(工学部)大前キャンパス、看護学部(本城キャンパス)見学会が実施できました。(1 年生)

また、高大連携事業として教養講座を 3 年生に対して 1 回、2 年生・1 年生に対して 2 回実施することができました。

## (5) 地域とのつながり

インターアクト部が足利ロータリークラブとの連携で足尾の植樹活動を行いました。足利市内でポリオ根絶キャンペーン・コンタクトレンズ廃棄ケース回収に参加しました。聖歌隊が足利市内介護施設及び障害者施設で出張コンサートを実施しました。

## (6) 部活の活性化

### 柔道部

インターハイ県予選 団体優勝

個人優勝 4 名 大分インターハイ出場 ベスト 16 1 名

関東ジュニア柔道体重別選手権

個人 6 名出場

国民スポーツ大会(佐賀県)

県代表として 2 名出場 団体 5 位

県新人大会

団体優勝(5 連覇)

個人優勝 5 名(関東選抜出場)

関東選抜大会

準優勝 1 名 5 位 2 名

全国高校柔道選手権

団体 8 位

個人ベスト 8 2 名

バトントワリング部

関東大会 入賞

	全国大会 12年連続出場 銀賞
書道部	各種書道展で入賞
バレーボール部	関東私学大会出場

## 5. 足利短期大学附属幼稚園（現足利大学附属幼稚園）

### (1) 子育て支援活動

#### ① 預かり保育の実施

	実施時間	令和6年度平均利用者
平日	14時～18時	13人
長期休業日	8時半～18時	12人

#### ② 地域子育て支援講座『ももちゃんクラブ』実施(ランド事業：市・県補助事業)

- ・子ども同士のふれあいや保護者同士の交流の場の提供と幼稚園教諭による遊びや子育て相談の実施をしました。(全20回予定→20回実施)
- ・入園前のプレスクールのような形態で1年間進めたところ、子どもたちは、躓きなく入園につながり、保護者からも本園への入園を前提とした育児相談を受けるなど、これまで以上に良好な関係と信頼を築くことができました。同クラブから入園へつながった園児は参加者17組中15組でした。

### (2) 地域連携活動

#### ① 高齢者との交流事業の実施(ランド事業：市・県補助事業)

- ・年中組 ケアハウス天王交流(6/4、9/10、3/26)
- ・年長組 うるしばら居宅介護複合施設交流(9/9、11/6、3/26)

近隣の老人ホーム施設2か所との交流をしました。主に年中児と年長児が中心となり施設訪問や来園してもらいお年寄りとの触れ合いや歌やダンスの披露、焼き芋大会への招待を行いました。核家族化が増えている昨今、お年寄りを労わる気持ちや優しい言葉かけをするなど成果も見られました。

#### ② 夏祭りの実施(7/20)

園児およびその家族、地域の方が参加しました。

#### ③ 中学生の社会体験学習、世代間交流(ランド事業：市・県補助事業)

協和中学校2年生「社会体験学習マイチャレンジ」(6/12、6/13、6/14)として来園し園児が世代間交流を3日間実施しました。

中学生とは年齢が比較的近いこともあってか、幼児が好むキャラクターやゲームなどの話題にも長けており遊びの中で交流を深めていく様子が見られました。

#### ④ 小学1年生との交流(11/30、2/17)

御厨小学校から今年度初めて秋祭りの招待があり年長児が参加したほか、就学前の学校見学でも小学生との交流を行いました。就学への期待が高められる貴重な交流会である。

#### ⑤ 寺院での坐禅体験(6/22)や河南消防署見学(11/14)

近隣の寺院(福居町龍泉寺)や河南消防署への見学体験を実施しました。地域で働く人からの学びや交流を深められました。

### (3) 法人内(高校・短大・大学)との連携

#### ① 足利大学との連携

法人理事長や足利大学学生との交流(5/17)、総合研究センター見学(8/2)

足利大学(本城キャンパス)へは、武井理事長先生のご指導による坐禅体験や、空手道部学生による空手の型の披露などを見学しました。また、サッカー部の学生とのボール遊びの交流も実施しました。

足利大学総合研究センターへソーラークッカーの実験体験に出掛け太陽光調理に関する貴重な体験ができました。

足利大学(大前キャンパス)へは、大学構内のドングリ拾いに出掛け自然と触れ合い経験ができました。

#### ② 足利短期大学との連携

足利短期大学の体育教員の指導の下、「コーディネーショントレーニング」を年間12回実践しました。昨年度から始まったものであり幼児のバランス感覚や運動機能を向上させるもので園児の体力や体幹の向上につながりました。

#### ③ 足利短期大学教育実習受け入れ→1年生 11/11～11/15 2年生 6/3～6/24

足利短期大学1年生が初年次教育見学観察(9/4)

#### ④ 足短大附属高校 1年生 職場体験学習(11/6)

足短大附属高校 2年生 職場体験学習(1/22)

足利短期大学附属高等学校の1年生、2年生が見学体験学習として来園し園児と交流を行いました。また、「DXハイスクール」の実践の一つとして高校生が「mocopi(モコピ)」というPCソフトを使いダンスを楽しんだり、AI機能を使ってGalaxy(ギャラクシー)タブレットにデジタル絵画を描いたりしました。

また、足利短期大学附属高等学校の体育館跡のグラウンドにおいて、年中組と年少組がサッカーなど運動遊びを実施しました。

#### ⑤ 国際交流

足利大学附属高校(エルクグローブ高校)留学生との国際交流会(6/13)

足利大学留学生との国際交流会(2/12)

※インド、パキスタン、スリランカの学生4名と園児の交流を実施しました。

### (4) 幼稚園評価および自己評価の実施

教職員および保護者会本部役員とで行事の在り方を振り返り新年度に向けての試みの話し合いを実施しました。

教職員の自己点検自己評価を行い、結果を見直し改善等を図りました。

### (5) 令和7(2025)年度入園園児募集 年少17名(内新規11名)

## 6. 主要工事等の概要

### 【足利大学】

1	テニスコートクラック補修工事	2,662,000	円
2	4号館耐震診断業務委託	6,963,000	円
3	5号館屋上防水工事	9,427,000	円
4	機械研究棟空調機更新工事	2,904,000	円
5	LED照明器具更新工事(理事長室・役員室・他)	3,157,000	円
6	LED照明器具更新工事(9号館補助金対象外)	4,345,000	円
7	7号館711講義室AV機器更新工事	2,530,000	円
8	本城キャンパス3号館1階廊下・天井修繕工事	2,013,000	円
9	4号館耐震補強設計業務委託	7,447,000	円
10	火災報知設備落雷修理	3,388,000	円
11	AUwifi(Meraki)拡張(研究室・本館)	22,319,000	円
12	9号館サーバ室内UPS設置	6,048,724	円

### 【足利大学附属高等学校】

1	ミレニアム棟7階講堂照明設備更新工事	3,685,000	円
2	DXハイスクール補助金工事に伴う備品購入及び工事	10,000,157	円
3	3階Gigaスクール拡張工事	2,266,000	円

### 【足利短期大学附属高等学校】

1	運動場整備工事設計業務委託	1,430,000	円
2	運動場整備工事	85,030,000	円
3	教室黒板表面張り工事	1,650,000	円
4	教室遮熱カーテン取付工事	2,926,000	円
5	DXハイスクール補助金工事に伴う備品購入及び工事	10,004,036	円

### 【足利短期大学附属幼稚園】

1	屋上防水修繕工事	4,400,000	円
2	遊具塗装工事	1,276,000	円
3	庇テント張替え工事	1,650,000	円
4	落雷被害による自動火災報知設備故障修繕	2,244,000	円
5	壁掛け非常放送設備更新工事	1,287,000	円

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

単位:百万円

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,351	2,350	1
手数料収入	43	43	0
寄付金収入	20	25	△ 5
補助金収入	825	829	△ 4
国庫補助金収入	374	379	△ 5
地方公共団体補助金収入	451	450	1
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	32	28	4
受取利息・配当金収入	2	3	△ 1
雑収入	133	135	△ 2
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	716	646	70
その他の収入	552	524	28
資金収入調整勘定	△ 857	△ 865	8
前年度繰越支払資金	931	931	
収入の部合計	4,749	4,649	100
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,171	2,163	8
教育研究経費支出	1,082	1,072	10
管理経費支出	301	287	14
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	118	117	1
設備関係支出	105	105	0
資産運用支出	10	10	0
その他の支出	288	315	△ 27
[ 予備費 ]	(25) 25		25
資金支出調整勘定	△ 34	△ 35	1
翌年度繰越支払資金	683	614	69
支出の部合計	4,749	4,649	100

\*各勘定科目の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

資金収支計算書は当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金(現金及びいつでも引き出せる預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。

#### [ 収入の部 ]

収入の部では学生生徒園児数が 2,492人(5/1現在)で、学生生徒納付金は23億5千万となりました。補助金は前年度に比べて1億円の減になっております。雑収入は退職財社団からの交付金8千5百万が主なものです。

#### [ 支出の部 ]

支出の部では人件費が21億6千3百万、教育研究経費が10億7千2百万、管理経費が2億8千7百万となっています。

#### [ 繰越支払資金 ]

令和6年度決算は前年度繰越が9億3千1百万、翌年度繰越が6億1千4百万で支払資金は差引3億1千7百万の減となっています。

## 2. 活動区分資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

単位:百万円

科目		金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,350
		手数料収入	43
		特別寄付金収入	20
		一般寄付金収入	0
		経常費等補助金収入	800
		付随事業収入	28
		雑収入	135
		教育活動資金収入計	3,377
	支出	人件費支出	2,163
		教育研究経費支出	1,072
		管理経費支出	287
		教育活動資金支出計	3,522
差引		△ 146	
調整勘定等		△ 250	
教育活動資金収支差額		△ 396	
施設整備等活動による資金収支	科目		金額
	収入	施設設備寄付金収入	5
		施設設備補助金収入	29
		減価償却引当特定資産取崩収入	300
		施設整備等活動資金収入計	334
	支出	施設関係支出	117
		設備関係支出	105
		施設整備等活動資金支出計	222
	差引		111
	調整勘定等		△ 1
施設整備等活動資金収支差額		110	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 285	
その他の活動による資金収支	科目		金額
	収入	貸付金回収収入	1
		小計	1
		受取利息・配当金収入	3
	その他の活動資金収入計		3
	支出	退職給付引当特定資産繰入支出	10
		預り金支出	25
		小計	35
	その他の活動資金支出計		35
	差引		△ 32
調整勘定等		0	
その他の活動資金収支差額		△ 32	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 317	
前年度繰越支払資金		931	
翌年度繰越支払資金		614	

(注記)

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	646	646	—	—
前期末未収入金収入	223	196	27	—
期末未収入金	△ 127	△ 99	△ 28	—
前期末前受金	△ 738	△ 738	—	—
収入計	4	5	△ 1	—
前期末未払金支払支出	280	280	—	—
前払金支払支出	9	9	—	—
期末未払金	△ 31	△ 31	—	—
前期末前払金	△ 4	△ 4	—	—
支出計	255	255	—	—
収入計 - 支出計	△ 251	△ 250	△ 1	—

### 3. 事業活動収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

単位:百万円

科 目		予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,351	2,350	1
		手数料	43	43	0
		寄付金	24	24	0
		経常費等補助金	796	800	△ 4
		付随事業収入	32	28	4
		雑収入	133	135	△ 2
		教育活動収入計	3,379	3,380	△ 1
	支出の部	人件費	2,196	2,187	9
		教育研究経費	1,468	1,458	10
		管理経費	364	350	14
徴収不能額等		1	1	0	
教育活動支出計	4,030	3,997	33		
教育活動収支差額		△ 650	△ 617	△ 33	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金収入	2	3	△ 1
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2	3	△ 1
	支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額		2	3	-1	
経常収支差額		△ 648	△ 615	△ 33	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	74	82	△ 8
		特別収入計	74	82	△ 8
	支出の部	資産処分差額	50	50	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	50	50	0
特別収支差額		24	32	△ 8	
[ 予備費 ]		(24) 26		26	
基本金組入前当年度収支差額		△ 650	△ 583	△ 67	
基本金組入額合計		△ 124	△ 123	△ 1	
当年度収支差額		△ 774	△ 705	△ 69	
前年度繰越収支差額		△ 17,133	△ 17,133	0	
基本金取崩額		65	57	8	
翌年度繰越収支差額		△ 17,843	△ 17,782	△ 61	
事業活動収入計		3,455	3,464	△ 9	
事業活動支出計		4,105	4,047	58	

\*各勘定科目の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

事業活動収支計算書は教育活動、教育活動外、特別収支の内容及び均衡の状態を明らかにするものです。

#### [ 教育活動収支 ]

収入の部では学生生徒園児数が 2,492人(5/1現在)で、学生生徒納付金は23億5千万となりました。補助金は前年度に比べて1億2百万の減になっております。雑収入は退職財社団からの交付金8千5百万が主なものです。

支出の部では人件費が21億8千7百万、教育研究経費が14億5千8百万、管理経費は3億5千万となっております。

#### [ 特別収支 ]

収入の部は施設設備寄付金が5百万、現物寄付金4千8百万、施設設備補助金が2千9百万です。支出の部では図書処分差額が5千万となっております。

#### [ 繰越収支差額 ]

当年度の収支差額は7億5百万の支出超過となりました。繰越収支差額は前年度繰越17億1千3百万に当年度の収支差額と基本金取崩額を加減して17億7千2百万の翌年度繰越収支差額となりました。

## 4. 貸借対照表

令和7年3月31日

単位:百万円

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,944	11,460	△ 516
有形固定資産	8,223	8,449	△ 226
土地	941	941	0
建物	5,619	5,892	△ 273
その他の有形固定資産	1,662	1,616	46
特定資産	2,710	3,000	△ 290
その他の固定資産	11	11	0
流動資産	752	1,161	△ 409
現金預金	614	931	△ 317
その他の流動資産	138	230	△ 92
資産の部合計	11,696	12,621	△ 925
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,471	1,447	24
退職給与引当金	1,471	1,447	24
流動負債	1,206	1,572	△ 366
前受金	646	738	△ 92
その他の流動負債	560	835	△ 275
負債の部合計	2,677	3,019	△ 342
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	26,801	26,735	66
第1号基本金	26,458	26,392	66
第4号基本金	343	343	0
繰越収支差額	△ 17,782	△ 17,133	△ 649
翌年度繰越収支差額	△ 17,782	△ 17,133	△ 649
純資産の部合計	9,019	9,602	△ 583
負債及び純資産の部合計	11,696	12,621	△ 925

\*各勘定科目の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

貸借対照表は年度末における資産、負債、基本金及び収支差額を算出し、学校の経営状態を表したものです。

[ 資産・負債の部 ]

有形固定資産が前年に比べ2億2千6百万減の82億2千3百万となりました。

資産の部合計が116億9千6百万で前年度に比べて9億2千5百万の減となっており、総資産に対する固定資産の割合は94%、流動資産の割合が6%、負債及び純資産の部合計に対する負債の割合は23%、基本金の割合が229%、繰越収支差額の割合が△152%となっています。

[ 繰越収支差額の部 ]

繰越収支差額は前年度繰越171億3千3百万に当年度の収支差額と基本金取崩額を加減して177億8千2百万の翌年度繰越収支差額となりました。

## 5. 財 産 目 録

I 資産額	11,696,095,507 円
内 基本財産	8,226,913,370 円
運用財産	3,469,182,137 円
II 負債額	2,676,852,909 円
III 正味財産	9,019,242,598 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	205,497.92 m <sup>2</sup> 941,344,022 円
建物	101,814.30 m <sup>2</sup> 5,619,324,055 円
構築物	443 件 151,904,196 円
教育研究用機器備品	12,051 点 396,827,275 円
管理用機器備品	1,188 点 22,269,157 円
図書	266,271 冊 1,040,033,291 円
その他	55,211,374 円
2 運用財産	
現金預金	613,870,803 円
積立金	2,710,000,000 円
有価証券	1,000,000 円
その他	144,311,334 円
資 産 総 額	11,696,095,507 円
負債額	
1 固定負債	
退職給与引当金	1,470,829,730 円
2 流動負債	
前受金	645,765,000 円
未払金	30,739,659 円
預り金	529,518,520 円
負 債 総 額	2,676,852,909 円
正味財産（資産総額－負債総額）	9,019,242,598 円

## 6. 経年比較

## 資金収支計算書

単位:百万円

収入の部					
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	3,017	2,980	2,889	2,614	2,350
手数料収入	63	55	53	46	43
寄付金収入	18	23	18	11	25
補助金収入	1,284	1,024	995	929	829
資産売却収入	0	0	0	0	0
受取利息・配当金収入	1	0	0	1	3
付随事業・収益事業収入	28	50	21	39	28
雑収入	455	220	169	207	135
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	959	877	802	738	646
その他の収入	620	732	281	313	524
資金収入調整勘定	△ 1,708	△ 1,242	△ 1,056	△ 1,026	△ 865
前年度繰越支払資金	977	717	783	721	931
収入の部合計	5,714	5,436	4,954	4,593	4,649
支出の部					
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,823	2,467	2,373	2,381	2,163
教育研究経費支出	1,074	1,107	1,156	1,129	1,072
管理経費支出	285	288	314	294	287
施設関係支出	727	186	256	54	117
設備関係支出	82	82	113	36	105
資産運用支出	0	500	20	0	10
その他の支出	41	57	42	52	315
資金支出調整勘定	△ 35	△ 35	△ 41	△ 285	△ 35
翌年度繰越支払資金	717	783	721	931	614
支出の部合計	5,714	5,436	4,954	4,593	4,649

\*各勘定科目の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

尚、以下の表についても同じです。

事業活動収支計算書

単位:百万円

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	3,017	2,980	2,889	2,614	2,350
		手数料	63	55	53	46	43
		寄付金	19	15	18	30	24
		経常費等補助金	1,003	928	946	902	800
		付随事業収入	29	50	21	39	28
		雑収入	475	220	169	207	135
		教育活動収入計	4,605	4,250	4,095	3,839	3,380
	支出の部	人件費	2,838	2,462	2,398	2,351	2,187
		教育研究経費	1,472	1,503	1,551	1,551	1,458
		管理経費	357	361	388	359	350
徴収不能額等		0	3	2	9	1	
教育活動支出計		4,667	4,329	4,338	4,270	3,997	
教育活動収支差額		△ 62	△ 79	△ 244	△ 431	△ 617	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金収入	1	0	0	1	3
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	1	0	0	1	3
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		1	0	0	1	3	
経常収支差額		△ 61	△ 71	△ 243	△ 430	△ 615	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	311	154	71	47	82
		特別収入計	311	154	71	47	82
	支出の部	資産処分差額	3	60	8	6	50
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	3	60	8	6	50
特別収支差額		308	94	62	41	32	
[ 予備費 ]							
基本金組入前当年度収支差額		247	15	△ 181	△ 389	△ 583	
基本金組入額合計		△ 119	△ 102	△ 254	△ 1	△ 123	
当年度収支差額		128	△ 87	△ 436	△ 390	△ 705	
前年度繰越収支差額		△ 16,750	△ 16,622	△ 16,495	△ 16,928	△ 17,133	
基本金取崩額		0	214	3	185	57	
翌年度繰越収支差額		△ 16,622	△ 16,495	△ 16,928	△ 17,133	△ 17,782	
事業活動収入計		4,917	4,404	4,166	3,886	3,464	
事業活動支出計		4,671	4,389	4,347	4,276	4,047	

## 貸借対照表

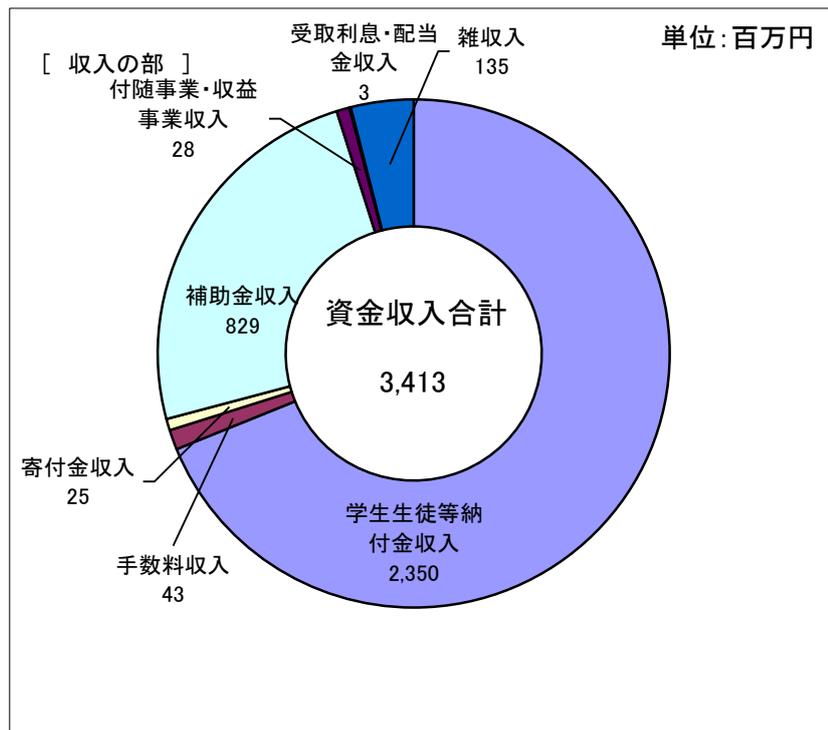
単位:百万円

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
資 産 の 部					
固定資産	11,731	12,018	11,954	11,460	10,944
有形固定資産	9,107	8,897	8,812	8,449	8,223
特定資産	2,610	3,110	3,130	3,000	2,710
その他の固定資産	14	11	12	11	11
流動資産	1,451	1,072	920	1,161	752
資産の部合計	13,182	13,090	12,874	12,621	11,696
負 債 の 部					
固 定 負 債	1,457	1,453	1,478	1,447	1,471
流 動 負 債	1,567	1,465	1,405	1,572	1,206
負債の部合計	3,025	2,917	2,882	3,019	2,677
基本金	26,780	26,668	26,920	26,735	26,801
繰越収支差額	△ 16,622	△ 16,495	△ 16,928	△ 17,133	△ 17,782
純資産の部合計	10,158	10,173	9,991	9,602	9,019
負債及び純資産の部合計	13,182	13,090	12,874	12,621	11,696

## 7. 財務説明資料

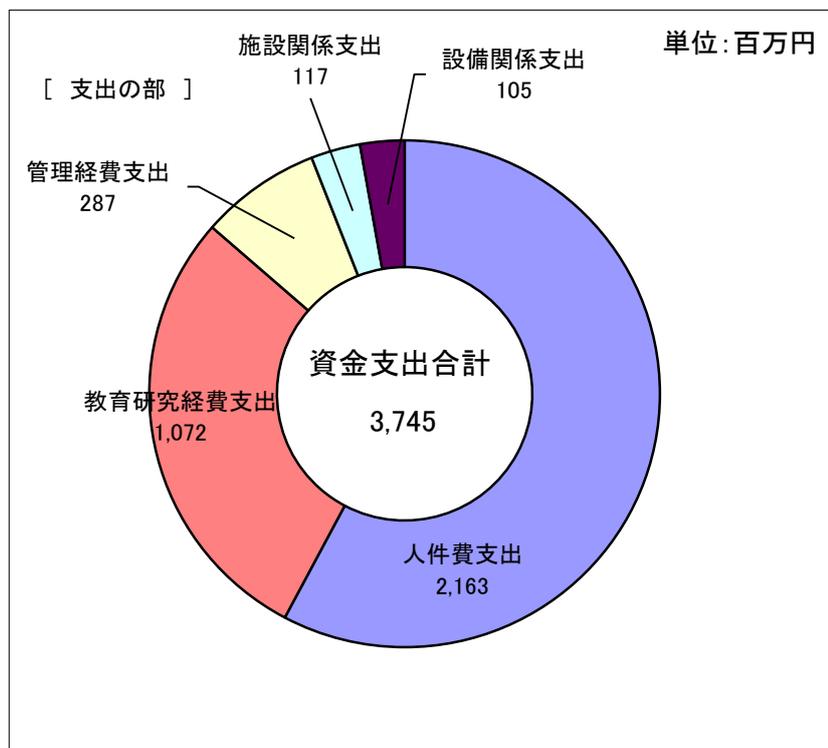
### 資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該年度における支払資金(現金及びいつでも引き出せる預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。



#### 科目の説明

学生生徒等納付金収入	授業料・入学金などの学生・生徒から納入されたものです。
手数料収入	入学検定料や証明書発行手数料などです。
寄付金収入	用途指定のある寄付金を特別寄付金といい、それ以外の寄付金を一般寄付金といいます。
補助金収入	国や地方公共団体などから交付されるものです。
付随事業・収益事業収入	売店などによる補助活動収入や外部から研究委託を受ける受託研究収入などの収入です。
受取利息・配当金収入	預貯金の受取利息などの収入です。



人件費支出	教職員に支給する給与・賞与・退職金、専任教職員の退職金財団掛金などです。
教育研究経費支出	教育・研究活動に支出する経費です。消耗品費・印刷費・光熱水費・旅費交通費・奨学金・修繕費・保守料・賃借料・業務委託費などがあります。
管理経費支出	法人業務や学生・生徒募集活動など、教育・研究活動以外の活動に支出する経費です。
施設関係支出	建物、構築物、建設仮勘定、施設利用権などの支出をいいます。
設備関係支出	教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車両などの支出をいいます。

#### 資金収支計算書独自の科目

前受金収入 : 4月以降分(翌年度)の学費などが3月末日までに納入されたときの収入です。

資金収支調整勘定 : 当年度の活動に供されているが、前年度以前や翌年度以後に収入・支出となるものが決算時に存在しているときの調整勘定のことです。

前期末前払金 : 当該年度中に支払う支出のうち、前年度までに支払済のものです。

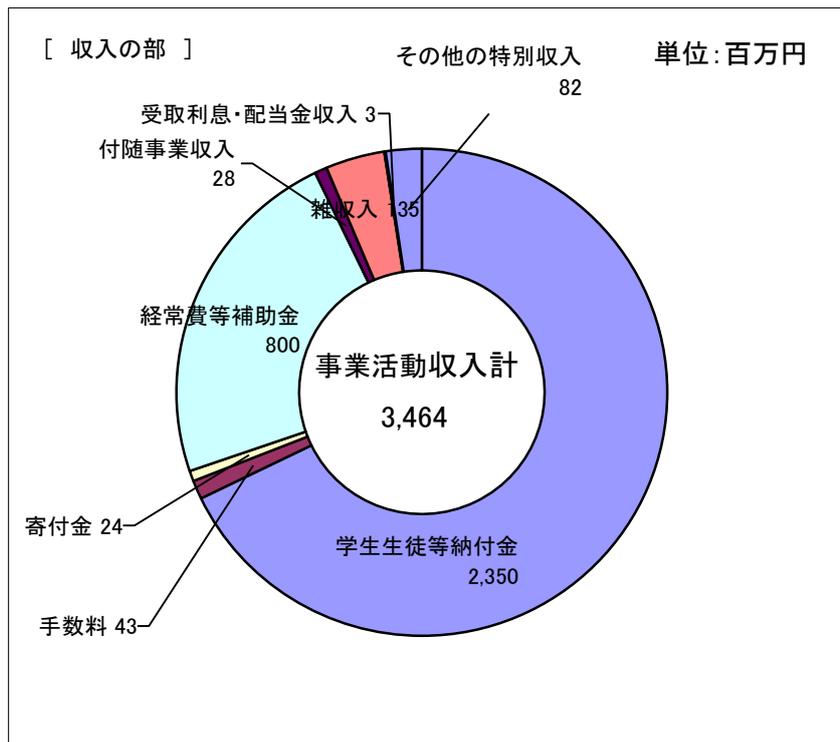
前期末前受金 : 当該年度中の収入のうち、前年度までに入金済のものです。

期末未払金 : 当該年度中に支払う支出のうち、翌年度以降に支払うものです。

期末未収入金 : 当該年度中の収入のうち、入金が翌年度以降になるものです。

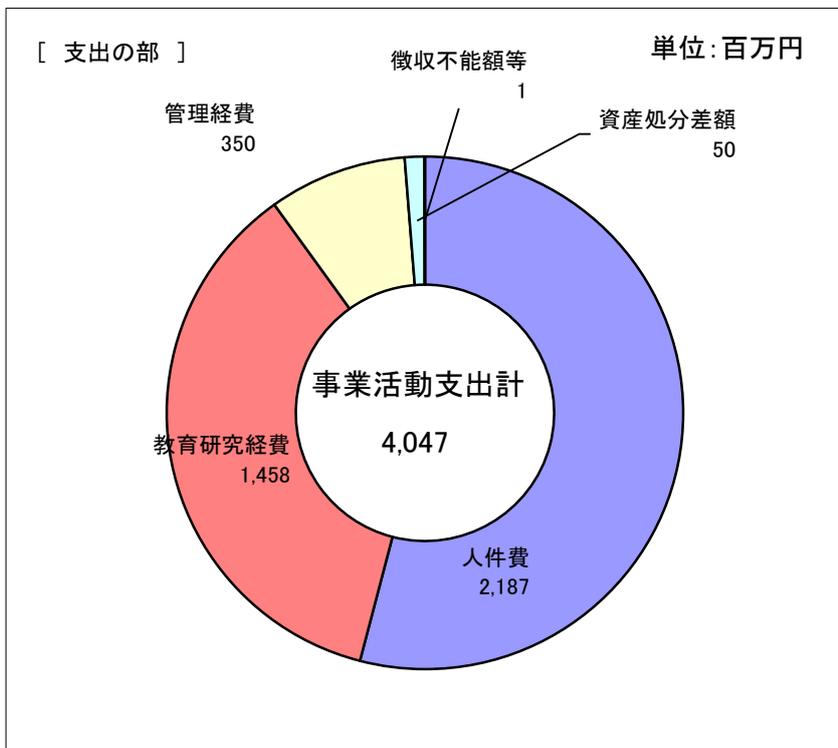
事業活動収支計算書

当該会計年度の活動別収入及び支出の内容及び均衡の状態を明らかにするものです。  
 事業活動収入は経常収入（負債にならない収入）と特別収入を合計した金額です。  
 事業活動支出は学校法人の費用となる金額で、資産取得の支出などを除いたものを計上します。



科目の説明

学生生徒等納付金	授業料・入学金などの学生・生徒から納入されたものです。
手数料	入学検定料や証明書発行手数料などです。
寄付金	用途指定のある寄付金を特別寄付金、それ以外の一般寄付金、寄贈された物品を現物寄付金といいます。
補助金	国や地方公共団体などから交付されるものです。
付随事業収入	売店などによる補助活動収入や外部から研究委託を受ける受託研究収入などの収入です。
受取利息・配当金収入	預貯金の受取利息などの収入です。



人件費	教職員に支給する給与・賞与・退職金、専任教職員の退職金財団掛金、退職給与引当金繰入などです。
教育研究経費	教育・研究活動に支出する経費です。消耗品費・印刷費・光熱水費・旅費・交通費・奨学費・修繕費・保守料・賃借料・業務委託費などがあり減価償却費が含まれます。
管理経費	法人業務や学生・生徒募集活動など、教育・研究活動以外の活動に支出する経費で減価償却費が含まれます。
徴収不能額	授業料、奨学貸付金で徴収が不能となったものです。
資産処分差額	不要となった固定資産を廃棄した時の代価が帳簿残高を下まわった場合に計上する差額です。

事業活動収支計算書独自の科目

教育活動収支：学生生徒等納付金・手数料・寄付金・補助金などの学校法人の主要収入であり、借入金のように返済義務のある収入を除外した収入から人件費・教育研究費・管理経費・借入金利息等を差し引いたものです。

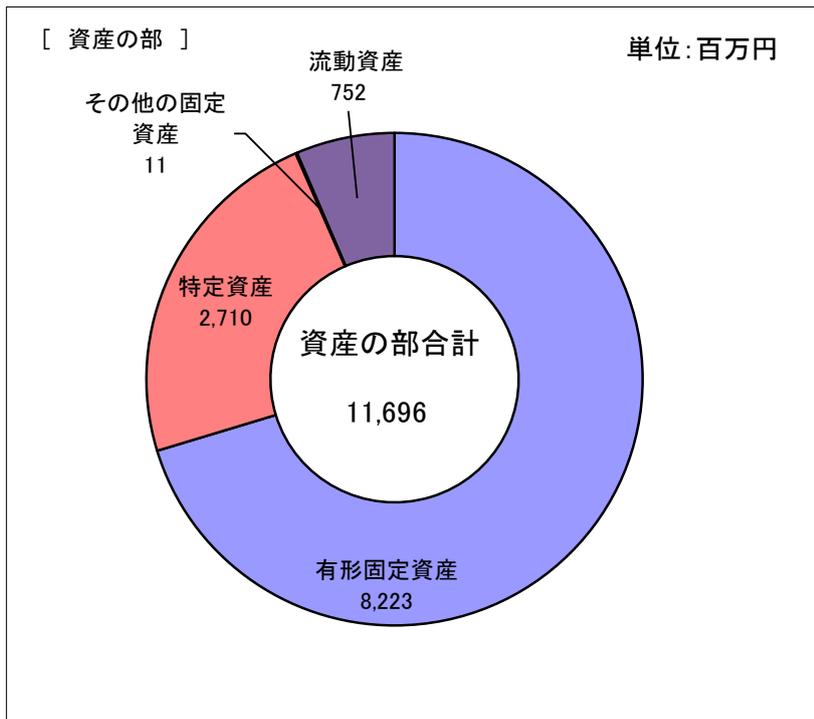
教育活動外収支：受取利息・配当金等の収入から借入金等の支出を差し引いたものです。

特別収支：固定資産にかかる寄付金・補助金などの収入から資産処分差額等を差し引いたものです。

基本金組入額：学校法人が、諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための資産を継続的に保持するための金額であり、第1号基本金から第4号基本金があります。

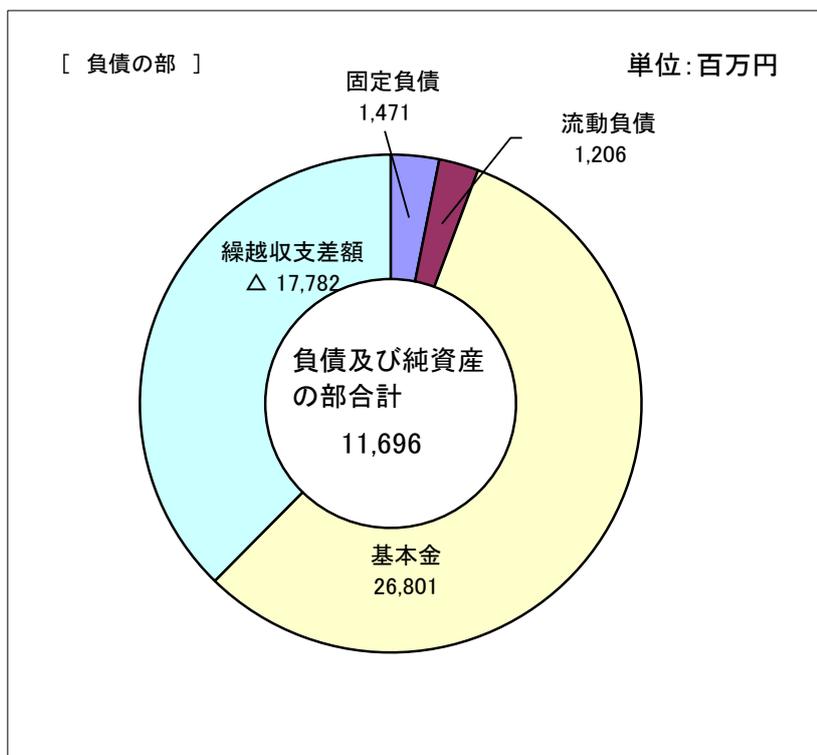
貸借対照表

年度末における資産、負債、基本金及び収支差額を算出し、学校の経営状態を表したものです。



科目の説明

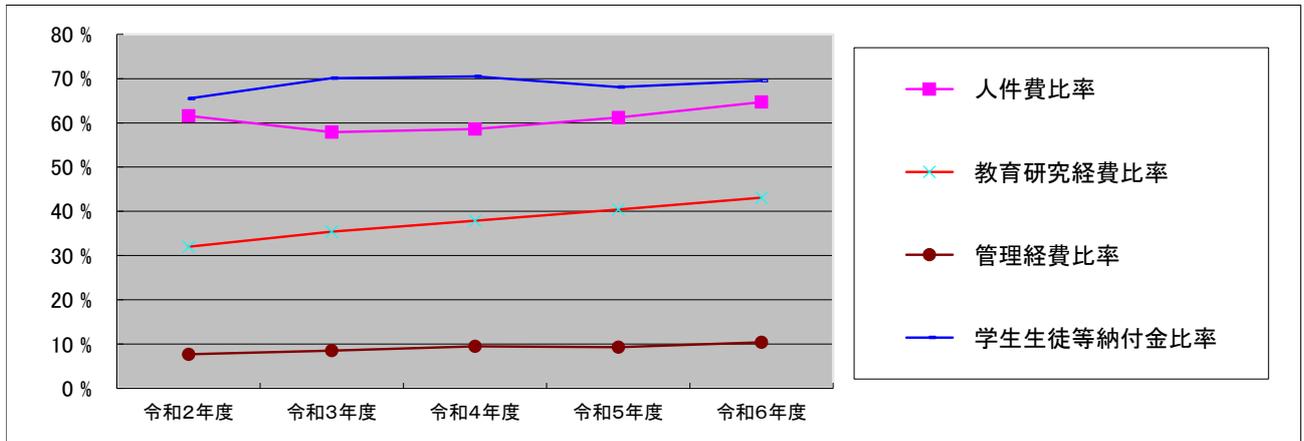
有形固定資産	土地、建物、構築物、建設仮勘定、教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車両などです。
特定資産	減価償却引当特定資産、退職給与引当特定資産
その他の固定資産	電話加入権、有価証券、長期貸付金、預託金
流動資産	現金、各種預金、郵便貯金、未収入金、販売用品などです。



固定負債	退職給与引当金
流動負債	前受金、未払金、預り金
<b>基本金</b>	
(第1号基本金)	土地、建物、備品、図書などの固定資産の取得価額
(第2号基本金)	将来固定資産を取得する目的で積み立てた預金などの額
(第3号基本金)	基金として継続的に保有する資産の額
(第4号基本金)	1ヶ月の運転資金(文部科学大臣の定める額)
繰越収支差額	本年度以前の各年度の収支差額の累計

本法人の財務比率の推移は、下記のとおりです。  
事業収支計算関係主要財務比率

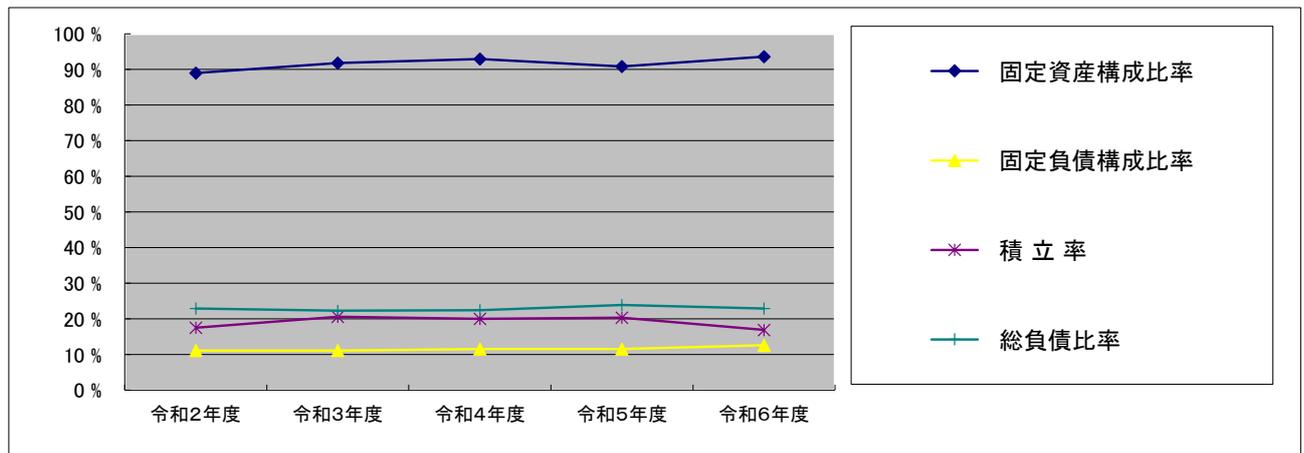
	比 率	算式(×100)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	人件費比率	人 件 費	%	%	%	%	%
		経 常 収 入	61.6	57.9	58.6	61.2	64.7
2	教育研究経費比率	教育研究経費					
		経 常 収 入	32.0	35.4	37.9	40.4	43.1
3	管理経費比率	管 理 経 費					
		経 常 収 入	7.7	8.5	9.5	9.3	10.4
4	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金					
		経 常 収 入	65.5	70.1	70.5	68.1	69.5



貸借対照表関係主要財務比率

	比 率	算式(×100)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	固定資産構成比率	固 定 資 産	%	%	%	%	%
		総 資 産	89.0	91.8	92.9	90.8	93.6
2	固定負債構成比率	固 定 負 債					
		負債+純資産	11.1	11.1	11.5	11.5	12.6
3	積立率	運 用 資 産					
		要 積 立 額	17.5	20.6	20.0	20.3	16.9
4	総負債比率	総 負 債					
		総 資 産	22.9	22.3	22.4	23.9	22.9

※ 運用資産＝現金預金＋有価証券＋特定資産、 要積立額＝退職給与引当金＋2・3号基本金＋減価償却累計額



## 学校会計と企業会計

企業会計は損益計算書と貸借対照表を作成しますが、学校会計は資金の収支を表す資金収支計算書、企業の損益計算書にあたる事業活動収支計算書、貸借対照表を作成します。

企業が利益追求を事業目的にしているのに対し、学校法人は教育・研究活動を目的としています。企業会計は計算書類にもとづく収益と費用の差額による利益により経営実績を明らかにしますが、学校法人会計は計算書類による財務の面から、教育研究活動が円滑に遂行されたかを明らかにします。学校法人が持続的発展をする状況測定のために、企業の損益計算書に類似する事業活動収支計算書は大変重要な計算書です。

## 学校法人会計計算書類の主な用語等

### (1) 資金収支・事業活動収支計算書に共通の科目

- ・学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産売却収入（差額）、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金、人件費、教育研究費、管理経費、予備費

### (2) 資金収支計算書にだけみられる科目

- ・前受金収入、資金収支調整勘定、施設関係支出、設備関係支出

### (3) 事業活動収支計算書にだけみられる科目

- ・現物寄付、退職給与引当金繰入額、減価償却額、資産処分差額、基本金組入額、基本金取崩額、当年度収支差額

### (4) 貸借対照表にだけみられる科目

- ・有形固定資産、引当特定資産（又は預金）、流動資産、固定負債、流動負債、基本金、翌年度繰越収支差額

## <学校会計に特有の用語>

**資金収支調整勘定**：その年度における支払い資金の実際の収入と支出だけで計算したのでは、表現が不十分のため、前年度以前に収入・支出されたもので当年度の活動に属するもの、翌年度以降に収入・支出となるが当年度の活動に属するものも含めて計算・調整する勘定科目を言います。「資金収入調整勘定」と「資金支出調整勘定」があります。

**事業活動収入**：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金など負債を伴わない収入で、借入金や前受金は除かれます。

**事業活動支出**：人件費、教育研究費、管理経費、借入金利息などの支出です。資金の支出を伴わない退職給与引当金繰入額や減価償却額を含みます。

**基本金組入額**：学校法人が諸活動の計画にもとづき教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための金額であり、事業活動収入から組入れた金額で、第1号基本金から第4号基本金があります。

- (第1号基本金) 土地、建物、備品、図書などの固定資産の取得価額
- (第2号基本金) 将来固定資産を取得する目的で積み立てた預金などの額
- (第3号基本金) 基金として継続的に保有する資産の額
- (第4号基本金) 1ヶ月の運転資金（文部科学大臣の定める額）

**繰越収支差額**：事業活動収支計算書において事業活動収入から基本金組入を引いた額と事業活動支出を比べ、その差額を「当年度収支差額」と表示します。各年度の累積額が貸借対照表の「翌年度繰越収支差額」となります。

## 監 査 報 告 書

令和 7 年 5 月 1 5 日

学校法人足利大学  
理 事 会 御 中  
評 議 員 会 御 中

監 事 石 川 尚 志

監 事 采 澤 良 浩

監 事 佐 藤 純 英

私たちは、私立学校法第 5 2 条及び学校法人足利大学寄附行為第 3 0 条の規定に従い、学校法人足利大学の令和 6 年度（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで）の、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行状況に関し監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、また令和 6 年度の学校法人の財産の状況は、適正なものと認めます。

以 上